

けっかく

結核のしおり

第4号
2009年3月作成



Illustration by Geff Read

結核の治療には「ドッツ」という方法があることがわかっていただけ
たでしょうか。「ドッツ」は多くの患者さんに歓迎されています。
費用のことなども心配せずに、まずは福祉事務所に相談しましょう。

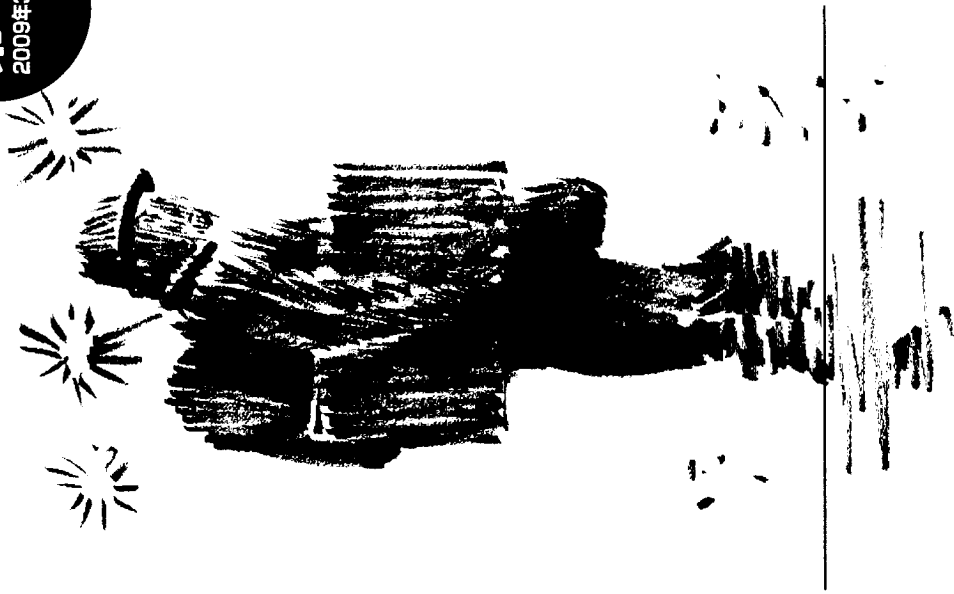
【発行】新宿ホームレス支援機構

新宿区高田馬場2-6-10 関ビル107号室

電話 03(5155)2705

FAX 03(5292)1408

E-mail : YHY07064@nifty.com



第1章 はじめに

東京の野宿問題の始まり

この「結核のしおり」は、東京都内で、野宿を余儀なくされている方々にお配りします。野宿をする方が増え始めたのは、東京では、平成3年、新宿に都庁が引っ越してきたころです。当時は、山谷、上野駅、新宿駅などでしか目立っていませんでした。とくに、新宿駅下道のダンボール小屋は社会的に注目され、平成6年には、都内で初めての追い立てが行われました。高度経済成長を経験し、貧困やスラムの問題は日本にももう存在しないと考えられていたもので、いくらバブル経済が崩壊したと言っても、野宿をするような人が出現するなどということは当時なかなか信じられませんでした。他に寝る場所がないのではなく、増えて野宿していると思われ、駅管理者に、「ここは住む場所ではない」と追い立てられたのです。追い立てられた人々は4週間だけ大田寮に入り、また新宿駅地下にもどってききました。他にいくところが無かったからです。平成8年には、「動く歩道」を設置するという名目で2度目の追い立てが行われました。このころには、渋谷や池袋、隅田川などに野宿の方が目立つようになっていました。新宿駅下のダンボール村は平成10年2月の火事で消滅しましたが、都内の公園や河川敷、そして、全国の多くの都市に野宿の方が増え続けていました。

自立支援センター

平成9年に、新宿で「自立支援センター」が試験的に開始されました。12年には本格的に、台東寮と新宿寮が設置され、現在では、5つの緊急一時保護センター（千代田寮・荒川寮・世田谷寮・練馬

寮・江東寮）と同じく5つの自立支援センター（中央寮・北寮・品川寮・杉並寮・高師寮）があり、ステップアップ方式（緊急から自立にすむ）の自立支援システムが完成しています。そして、今後はセットになっている2つの寮が「新型自立支援センター」として統合されていくことも決まっています。平成14年には「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」という野宿の方のための法律もでき、国としても自立支援センターを作っていくことになりました。

また、路上生活を解消するための手段としては、生活保護を受ける、という方法もあるのですが、すぐにアパートに入れるのではなく、団体生活の宿泊所に入れられることが多いので、安心して長く置の上の生活を続けられるかどうかはわかりません。平成16年から19年まで、公園から直接アパートに入る「地域生活移行支援事業」という事業が実施されたのですが、すでに終了しています。

ホームレス問題の新たな段階

昨年の秋ごろから、再び野宿の方が増え始めています。空き家のあった自立支援施設もこのところ、満杯状態がつづいています。年末には日比谷公園で「年越し派遣村」が実施されました。製造業などの派遣や契約で働いていた労働者、または常用雇用で働いていた多数の労働者が仕事と住まいを同時に失って路上に押し出されています。東京には、昨年から、新宿歌舞伎町に、チャレンジネット



Illustration by Geff Read

という、ネットカフェ利用者を対象にした相談窓口が設けられていました。有効に機能しなかったのです。このように路上に押し出される人は増えようとしているのに、自立支援システムのほうは縮小が決まっております。東京の路上生活者対策の行方が心配です。

ホームレスの人と結核

野宿の方は結核にかかりやすい、ということが保健所や結核研究所の調査から明らかになっています。その理由ものちほど詳しく述べますが、結核は治療を受ければ治る病気です。みなさんが結核にかかっても、治療を受けて結核を克服なさることをねがって、このしおりを発行いたします。

だい しょう けつかく 第2章 結核について

けつかく 結核のことを知っていますか？

よく知られているように、結核という病気は、日本では撲滅されたと考えられていましたが、平成の初めから再び患者が増え始め、関係者のあいだで心配されています。平成12年ごろからは全体としては患者発生数は落ち着いてきているのですが、野宿の方や外国人労働者など、特定のグループの人が結核にかかりやすい、ということがわかってきています。インターネットカフェでも結核の集団発生がありました。野宿の方になぜ結核が蔓延す

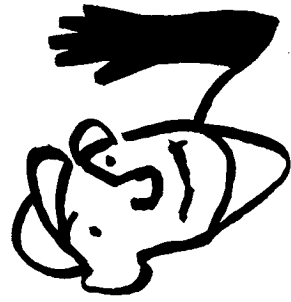


Illustration by Geff Read

るのか、原因はたくさんあると言われています。中高年である、ストレスが多い、栄養状態が悪い、治療を中断した人がいることなどです。結核は早期発見、早期治療すれば必ず治る病気です。さらに、治療を中断することは結核の場合、たいへん危険なことです。薬が効かなくなってしまうので、菌が強くなって、薬の効かない耐性菌という菌になってしまふのです。結核について、早期治療すれば治る、治療中断はたいへん危険だ、ということをおいてください。

Illustration by Geff Read



けつかく 結核ってどんな病気？

- 咳やタンが長くつづきます。ふつこの風邪だと1〜2週間です。2週間以上なるのだけれど、結核の場合もつづくのです。2週間以上長く引く咳は赤信号です。
- 咳・タンと同時に微熱が出たり、身体がだるくなることが多いです。

ひと かが どんな人が罹りやすいか？

- 栄養状態の悪い人
- 昔、結核にかかって完全に治るまで治療しなかった人
- 糖尿病・腎臓病にかかっている人
- 胃を手術したことがある人

結核が心配になったら

- 2週間以上つづく咳など、症状のある方は、近くの福祉事務所に行き、そう言います。結核のことがわかる病院などでレントゲンを撮る手配をしてくれます。費用はかかりません。
- 「路上結核検診」(野宿者のためのレントゲン検診)が実施されている地域もあります。保健所がチラシを配ったりするので、そのときはぜひレントゲンを撮ってもらいましょう。これも無料です。
- 他の病気の場合もそうですが、血を吐いたり、動けないほど苦しい場合は回りのなかまや通りがかりの人に救急車を呼んでもらいます。

治療はどうすればいいの？

最近はいよいよ薬ができていますので、初めて結核の治療を受ける人のほとんどはこれらの薬をきちんと飲めば半年から1年以内に完全に治ります。が、きちんと薬を飲まなかったりすると、治らないばかりか薬が効かなくなってしまいます。治療を途中でやめたりすると身体が弱ったときに、ひそんでいた菌が勢いを強くし、前より悪い状態になってしまいます。主治医に「治った」と言われるまできちんと治療をつづけることが大切です。

治療の方法としては、入院が必要なのですが、どうしても事情がある場合は野宿生活のまま治療を完了した方もいるので、専門家とよく相談してください。また、最初は短期間入院するとしても、2〜3ヶ月で退院し、宿泊所、ドヤ、アパートなどに住んで、保健所などに毎日薬を飲みに通う方法(ドッツ)も一般的になってきています。

その費用は？

入院や治療のための費用は公費で負担してくれます。入院中は日用品費が生活保護から支給されるし、退院すれば、生活費は生活保護で出してくれます。第3章の体験談でわかるように、退院したあとは、野宿にもどらずに、生活保護を受けながらパート仕事などをする方がほとんどです。

第3章 結核の治療を受けて

結核の治療を終えた方たちが、「ひまわりの会」という会をつくって集まっています。「ひまわりの会」のメンバーの体験談です。

◎Aさん

病気もなく、健康保険料払ってただけで、50歳過ぎるまで健康保険証持って病院へ行ったことなかった。国民健康保険についても払うばかりで、なんだか損だなあと思ってた。自分が結核になるとか100%思ってたわけ。自分は型枠大工なんだけど、



結核が心配になったら

- 2週間以上つづく咳など、症状のある方は、近くの福祉事務所に行き、そう言います。結核のことがわかる病院などでレントゲンを撮る手配をしてくれます。費用はかかりません。
- 「路上結核検診」(野宿者のためのレントゲン検診)が実施されている地域もあります。保健所がチラシを配ったりするので、そのときはぜひレントゲンを撮ってもらいましょう。これも無料です。
- 他の病気の場合もそうですが、血を吐いたり、動けないほど苦しい場合は回りのなかまや通りがかりの人に救急車を呼んでもらいます。

治療はどうすればいいの？

最近はいよいよ薬ができていますので、初めて結核の治療を受ける人のほとんどはこれらの薬をきちんと飲めば半年から1年以内に完全に治ります。が、きちんと薬を飲まなかったりすると、治らないばかりか薬が効かなくなってしまいます。治療を途中でやめたりすると身体が弱ったときに、ひそんでいた菌が勢いを強くし、前より悪い状態になってしまいます。主治医に「治った」と言われるまできちんと治療をつづけることが大切です。

治療の方法としては、入院が必要なのですが、どうしても事情がある場合は野宿生活のまま治療を完了した方もいるので、専門家とよく相談してください。また、最初は短期間入院するとしても、2〜3ヶ月で退院し、宿泊所、ドヤ、アパートなどに住んで、保健所などに毎日薬を飲みに通う方法(ドッツ)も一般的になってきています。

その費用は？

入院や治療のための費用は公費で負担してくれます。入院中は日用品費が生活保護から支給されるし、退院すれば、生活費は生活保護で出してくれます。第3章の体験談でわかるように、退院したあとは、野宿にもどらずに、生活保護を受けながらパート仕事などをする方がほとんどです。

第3章 結核の治療を受けて

結核の治療を終えた方たちが、「ひまわりの会」という会をつくって集まっています。「ひまわりの会」のメンバーの体験談です。

◎Aさん

病気もなく、健康保険料払ってただけで、50歳過ぎるまで健康保険証持って病院へ行ったことなかった。国民健康保険についても払うばかりで、なんだか損だなあと思ってた。自分が結核になるとか100%思ってたわけ。自分は型枠大工なんだけど、





竹中工務店の現場に入るときに身体検査があって、「あなた、肺に影があるよ」って言われて、まさか！と思った。機械が壊れるとか思わなかった。保健所でお医者さんに「仕事しながら薬のものはたいへんだらうけどがんばってください。」と言われて、現場が変わっても帰って来たら保健所に行くと3ヶ月くらいはまじめにのんだかな。仕事クビになって、お金は少しはあったけど、どこへ行けばいいかわからないし、新宿駅で「中央公園行けばいいよ。」と教えられて、脚のつけ根のヘルニアが腫れて歩けないし、中央公園のボランティアの紹介で福祉事務所から病院へ行った。ヘルニアは手術しないといけないんだけど、結核やったことがあると話したら大騒ぎになった。患者としてコンピュータに登録されて、さきに結核の治療を再開することになった。ドヤから保健所に通って、ドッツやって（保健師さんの前で薬をのむ。いろいろ話をしたりする）ドッツミーティング（薬をのんでいる患者さんのあつまり）にも出た。治療が終わったので仕事探すことになって施設に移った。お医者さんに「腰も悪いし、糖尿や骨粗しょう症もあるし、今までのようには働けませんよ。もう難しい仕事は無理ですよ」と言われて、福祉事務所の就労指導員と相談して、掃除のパートをやって2年になる。

新宿で歩けなかったときは、自分はもう、はっきり言って人生終わったと思った。働けるだけ働いてそれでダメならもういいやって頭だった。福祉にかかろうって気持ちはこれっばちもなくて。福祉かかる人はもっと困ってる人だと思ってるから。治療してもらったらばあっと明るくなった。ドヤに入って薬のみなさい、と言わ

れたときはばあっと明るくなったもんな。結核が治ってよかった。あのまま結核の治療をやめたままだったら、耐性菌という強い菌になってしまふところだった。そういうことも治療を再開してから保健所でピデオみて知った。みな、結核だと言われてもたいしたことないと思ってるんだ。だから、入院しても隠れて薬捨てちゃう人がいる。結核かかってるって言われても、自分で治療するとしても思ってた。こういうのはただでやってくれるとかそういうの分かんなかった。

◎Bさん

子どもは女房の姉にあずけて、二人で東京の下町で飯場に入ってた。女房はまかない。42歳の区の節目検診で「影がありますよ」と言われた。叔父が結核やってたから「おまえ、俺のがうつたんじゃないか。」なんて叔父も言ってる。自分はそのときはいいかげんに考えて、薬を途中でやめちゃった。トビやってたもんで病院行くひまがなくて、薬きらしちゃって、もう自分から薬取りに行かなくなっちゃった。7年たってから、咳が止まらないときがあって、女房は持病で福祉事務所によく行くのでそのとき福祉事務所に「うちの人もまた結核じゃないだろうか。」と話した。病院へ必ず行くように言われたし、実際やっぱり結核だった。

新宿区内の生活保護の家族用施設（鉄筋で外見は都営住宅のような建物）に入って新宿保健所のドッツに通った。家で薬のむのむではなく保健師さんが見てくれていたし、患者どおしのあつまりにもよ



く参加したのがよかったと思う。こんどは最後まで治療できた。結核ってもともと嫌われるもんだと思ってた。会社でも薬飲んでことは隠してた。単身のドヤや宿泊所でもみんな隠れて薬飲んでる。でも排菌してなければうつることはないんだよね。新宿では、患者とおしや保健師さん、たくさんの人と知り合って、結核についていろいろわかったし安心して治療してた。

◎Cさん

ドッツが終わって、生活保護切って仕事にもどろうかなと思ってる。新宿区内の宿泊所に入って新宿保健所に薬飲みに通った。前の会社の社長に会いに行ったし、宿泊所の寮長にも「出る」と言った。会社の寮に入るの、いったんこういうふうに会社に勤めちゃうと、「仕事に出てくれ」と言われれば無理してでも出るような生活になっちゃうから、ドッツの友達とかは、「生活保護切らないでやる方法はないのか。」と心配してくれるんだけど、やるしかない。保健所や福祉事務所では、保健師さんやケースワーカーさんて、こっちから言わないとしゃべってくれない、どうしても話さなくちゃならない。それで、俺もずいぶん人と話できるようになった。会社では誰とも話さなくて、黙っていなくなるといふのを5、6回やった。こんどは、会社で「結核うつすなよ。」とか嫌味言われても、かっとならないで静かに言い返せると思う。人の言うことよく聞けるようにもなったし。

◎Dさん

具合悪くても医者には行かない。めんどくさいから行かないんじやない、先立つものがないから。医者行きたいと思っても福祉とおさなくちゃなんないし。

3000円のアパートに入るときにレントゲン検診で「肺に影がある」と言われて入院した。みんなドッツの話をよくするけど、自分は入院してる間、ドッツじゃなかった。他の病気で同じように、ただ、薬箱いっていただけ。そして、半年間入院して薬は飲み終わった。退院してから薬飲みに通うというようなのはしなかった。自分のがんだから、飲まないと行こうと言われれば、ちゃんと飲むんだ。人にあれこれ言われたくない。

◎Eさん

タクシー運転手やってて、会社の検診で「肺に影があるから再検査が必要」と言われていた。借金問題で路上生活になって半年たったとき、厳冬の2週間の太田寮に入った。次の日レントゲン撮って「影がある」と言われ病院へ直行。排菌してることがわかった。タンは出てたし寝汗もかいてたんだけど、路上生活やってる間に急激に悪くなってたんだな。ホームレスやってて、寒いしどうしようもねえなあと思って。死ぬことはないと言われたけど。退院してドヤから新宿保健所に通ってドッツをやった。そのあと生活保護の就労支援専門の施設に移ってもとのタクシー運転手にもどった。借金のカタもついている。ドッツについて、薬くれればいだけなのに、毎日通わせるなんて、と悪く言う人もいるけど、自分なんかは投げ出しちゃうタイプだから、ドッツでよかった。このまま死んでしまおうという不安はなかったけど。

結核になったのは不幸なことだけれど、全員が勇気をもって生活の立て直しをはかっておられることがわかってもらえたとおもいます。